



旧花田家番屋内部（小平町）



佐賀番屋（留萌市）



岡田家（苫前町）



ニシン料理の伝統が今も地域に残る

留萌管内の「ニシン街道」沿いの漁場で、本州から来たヤン衆が沖揚げ音頭に乗り、海を真っ白に染めるニシンを追いかけた。最盛期は江戸末期から明治後期とされ、日本海沿岸のこの一帯は「千石場所」として大にぎわいした。街道沿いの海岸に並ぶ佐賀番屋（留萌市）旧花田家番屋（小平町）岡田家（苫前町）は、ニシン漁業の網元や庶民の暮らしを垣間見ることが出来る貴重な文化遺産だ。

◆佐賀番屋

1957（昭和32）年まで113年間、ニシン漁が行われた留萌市礼受（れうけ）の佐賀家漁場。この前浜に99年春、ニシンの群来（くき）が45年ぶりに現れ、番屋は一躍、脚光を浴びた。

建物と前浜、船着き場が今もそのまま残

る道内唯一の番屋で、97年に国の史跡指定を受けた。

青森県下北で海運業をしていた佐賀家が1844（弘化元）年、漁場を開いたのが始まり。番屋からは手紙や台帳など約1万5000点の文書が見つかり「北前船による大阪方面への流通状況が分かる資料」（留萌市）として注目される。

◆旧花田家番屋

佐賀番屋から国道232号を北上すると、小平町鬼鹿に旧花田家番屋が建つ。安芸（広島県）出身の花田家の祖先が1863（文久3）年、同町で漁場を開いた。明治中期の最盛期には18カ統の定置網を経営。米倉など100棟に近い建物を持ち、雇い人も500人を超える大ニシン漁家として名をはせた。

重要文化財指定を受けて同町が花田家から買収し1976年7月、親方の居室、漁夫の寝所などを再現した観光施設としてオープンした。昨年度の入り込み数は12万8000人。町の代表的観光施設になった。

◆岡田家

「ニシン街道」最北の番屋は、苫前町苫前の漁港近くにある岡田家。1886（明治19）年の建築で、岡田家が海淵鹿之助という人物から購入した。ニシンが姿を消す1955年ごろまで使われた。

Data

佐賀番屋（留萌市）：現状は内部見学不可。収蔵品の一部は海のふるさと館で保管

旧花田家番屋（小平町）：入場料・高校生以上350円、小中学生100円。5～10月9時30分～17時、11～4月10時～16時、休館・月曜と12月28日～1月15日。隣接する道の駅飲食施設にはニシンそばやニシン定食あり

岡田家（苫前町）：現状は内部見学不可。収蔵品は苫前町郷土資料館（入館料・高校生以上210円、小中学生100円、5月1日～11月10日の10時～17時開館。月曜休館）で展示。

●お問合せ先

留萌市 海のふるさと館 Tel.0164-43-6677
留萌市企画財政部調整課調整係

Tel.0164-42-1801

小平町 旧花田家番屋管理事務所 Tel.0164-57-1411

小平町総務課企画振興係 Tel.0164-56-2111

苫前町 苫前町企画振興課まちおこし係

Tel.01646-4-2211

人で保存・管理するのは経済的に不可能」と訴える。

小平町が所有する旧花田家番屋、所有者から委託され留萌市が管理する佐賀番屋とは異なり、行政の支援が受けられない。岡田さんは「保存したい気持ちはやまやまだ。しかし……」。玄関軒下の土台が下がり、母屋の木は年々やせ細っている。台風で毎年のように屋根がはがれ、補修に50万円かかる。

3棟の番屋だけが北海道遺産に選定されたことに疑問の声もある。番屋は、南は寿都町の橋本家から北は羽幌町天売の池田家まで延びている。「留萌市海のふるさと館」の福士廣志館長は「支庁割りで留萌管内に限定したに過ぎない。日本海沿岸一帯を街道にすれば広域的に連携し、イベント効果が図られるのだが」と疑問を話す。